

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1150
施設名	向島ひまわり保育園
施設所在地	墨田区向島 3 - 2 2 - 8
法人名	社会福祉法人宝樹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

乳児の表現活動（リトミック）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

園の特色としては、都内にある園庭の無い園であり、基本的には毎日園外に散歩に出ている。異年齢での交流も盛んに行われ、乳児は幼児との交流も喜んでいる状況である。基本的には室内の環境も、多彩な玩具が用意され、子どもたちが好きな玩具でじっくりと遊べるようなコーナー分け等を行い、子どもたちの主体性を大切にした保育が行われている。時折、保育者によるピアノを用いたリトミックを行うと、年齢問わずに子どもたちが関心を示して参加でき、この活動をもっと専門的に年齢に応じて行いたい。子どもたちの表現の幅を広げたい、との思いから、専門講師を招いていてのリトミックの活動を始めた。

2. 活動スケジュール

月に2回、隔週で行っている。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

1歳児の保育室を使用して活動している。活動前には、安全に配慮して、机や椅子を片付け、ジョイントマットを敷き、広い空間を準備している。また、移動できる電子ピアノを用意している。その他、活動で使用する楽器や素材などは、講師がその時々テーマやねらいに応じて準備してくださっている。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

それぞれの年齢に応じているが、挨拶・導入で活動への気持ちの切り替えを行い、様々な楽器に触れて音の伸びや響きを体感する。

また、ピアノのリズムや強弱によって即時反応を行ったり、講師の言葉や音楽からイメージしたことを身体の動きで表現する、等を楽しみながら行っている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

活動の内容としては、上記に記載した通りである。具体的な子どもの姿としては、0、1歳児クラスでは講師が持参した音の響きが綺麗で伸びのある楽器等に触れることができ、実際に手で触れて音を出すことでより音楽や活動への興味関心を高めている。また、どのクラスでも実感することであるが、新しい楽器に触れたり体験する時には、友だちの様子を側で見守りながら自身の順番がくるまでに期待感を高めていたり、「順番を待つ」という基本的な社会性の部分の成長にも繋がっている。

保育者も一緒に活動に参加することで、安心感を持ちながら活動に取り組んだり、場になじめない子も



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年齢によって興味や関心の度合いは異なるが、月に2回隔週のペースでの活動は、子どもたちのリトミックへの期待を高め、意欲的に参加できる日程となっている。

この活動を通して、子どもたち一人ひとりの発達や理解度を把握することができたり、日常の保育の中に取り入れられる取り組みを知ることができ、子どもたちにとっても保育者にとっても有意義な活動になっていることを実感している。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1150
施設名	向島ひまわり保育園
施設所在地	墨田区向島3-22-8
法人名	社会福祉法人宝樹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

科学遊び（STEM遊び）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

園の特色として、子どもの主体性を育む保育に力を入れている。活動内容は子どもたちと話し合ったり、子ども自身が選択したりできるようにしている。環境構成も子どもが好きな遊びや興味のあることに自ら取り組めるようにコーナー設定をしている。

その中の一つにSTEMコーナーがあり、子どもたちが興味を持って観察や遊びを楽しんで。玩具の種類や用具を増やしてコーナーの拡充を図ることで、子どもたちの好奇心や探求心を刺激し、遊びの発展に繋がって言って欲しいと願い、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

コーナーを設定し、通年実施した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

ブリオビルダー、デジタルはかり、マグビルド、砂時計、図鑑

・コーナーの一つとしていつでも取り出せるようにしたり、子どもが遊びたいタイミングで用意をした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・制作をしながら組み立て・分解の仕組み、部品の接続や動き等に触れる。
- ・量や重さについて実験をする
- ・興味のあることを調べたり、友だちと話し合ったりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・見本通りに車を作っていたが、遊ぶ中でねじやビスの止め方によって、てこの原理のような使い方をして遊ぶ姿が見られるようになった。遊びの中で保育者がてこの原理を説明すると、マジックハンドのようなものを作り友達と物をつかめることを発見していた。
- ・初めはデジタルはかりに物を乗せると「数字が変わる！」と友達同士で驚いていた。保育者が物によって重さが違うことを伝え、部屋にある様々の物を乗せて重さを図っていた。その後、重さを比べたり、100 g ぴったりになるように物を乗せたりするなどの遊びをするようになった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・玩具を充実させ遊びのコーナーを設定することで集中して遊ぶようになり、同じ遊びをしている子同士で試行錯誤しながら発見を楽しんでいた。保育者はできるだけ遊びを見守り、子どもたちの発見や驚きに共感することで子どもの主体性の成長を感じることができた。
- ・遊びから派生して生活の中にある数字に興味を持ったり、身近なものがどのような仕組みでできているのか興味を持ち調べるきっかけになった。
- ・予想と違う動きや想像通りにならない経験から、理由や対策を考えたり話し合っていた。それが考える力の育ちに繋がっていった。
- ・使い方にコツのいるような玩具では、上手く扱えないからこそ自分で出来るようになりたいという気持ちに繋がったように感じた。何度もやって出来た時の喜びは、友達にも教えてあげたり、やってあげたいという気持ちも生まれた。初めは見本通りに行っていたが、ボールの動きを見て仕組みを変える事や見本にない自身のイメージを試行錯誤しながら繰り返し表現していた。